

---

# 高校生活と探し物

撫子 雪姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

高校生活と探し物

### 【Nコード】

N8746Z

### 【作者名】

撫子 雪姫

### 【あらすじ】

あああ高校（仮）で生活して、探し物を見つける天神どくろのお話

## 入学試験と拷問（前書き）

初めてですので、お手柔らかにお願いします。

## 入学試験と拷問

こ、ここが俺の受験の高校、ああ高校（仮）かぁ・・・

ん？（仮）って…まだ名前が決まってないのかな？

そうなら適当すぎるだろ・・・

先生に勧められて入ったんだけど、どういう高校なのか、謎だ。

ネットで調べても、都市伝説ばかりだし・・・

都市伝説によると、頭や運動神経がかなりいい人たちが集められるとか・・・

この先不安だ。

俺はその不安を振り払って、試験会場へ向かった。

試験会場に入ると、重苦しい雰囲気俺を襲った。

プレッシャーというか、なんというか、とにかく空気が張り詰めているのだ。

ここから早く逃げ出したいくらいの空気が僕の具合を悪くする。

・・・腹が痛い。

うわ、最悪。こんなときに・・・

と・・・トイレに行こう！今ならまだ間に合う！！・・・気がする！！

ジャー――

「ふう・・・今何ぞっつ！！やばっ！！10秒前だし！！」

この時計は正確なのかどうか知らないが、完全に遅れる！！

僕は全力で走った。

ガラッ

「セ．．．セーフ？．．．なの．．．．．か？」  
しー．．．

うう．．．アウトか？

「早く席に着け、天神どくろくアマガミ ドクロく」  
セーフ？ セーフなのか？

まあいいか。とにかく座ろう。

「私は担当の希咲遙くキサキ ハルカくだ。」

おお、よく見たら超美人。

「では、今から筆記試験を開始する。ヘタな真似をしたら即失格だ。  
いいな？」

プリントが配られる。

「開始っ！！」

バツ

おお！？なんだこれ！？超難しいじゃねえか！！普通なら絶対に解  
けねえぞ！！

．．．だが俺は普通ではない！天才秀才天神どくろ様だ！

．  
．

筆記試験が終わるころには、俺はゲッソリになっていた。

「な・・・なんなんだあの問題は・・・拷問並みに難しいぞ・・・」

「おい！まだバテるなハゲ！！次はもつときついのがあるんだぞ」

・・・え？

「ふん、聞いて驚け。いや、これを聞いて驚かない者はいない。いや、すこしはいるかもしれんが・・・」

な、なんだ？

「体力試験だ！！」

へえー・・・ふえ？た、体力試験だと？そんなの聞いてねえよっ！！

「ふふふ、私には見えるぞ。貴様らのバテる姿が。」

いやいやいやいやまじで無いわーまじありえねえしーマジ聞いてねえしー

「さあ、移動するぞ。体育館に」

続く

## 入学試験と拷問（後書き）

かなり読みづらいと思いますし、ヘタクソだと思います。  
最後まで読んで下さった方、ありがとうございます。

## 入学試験と拷問2（前書き）

書けるときは書かないとって思ってた話目です。



## 入学試験と拷問2

た・・・体力試験だと!?

も、もちろんやってやるさ!母ちゃんに約束したからな!  
長い廊下を歩いて2分。ようやく体育館についた。

「よく聞け。今から3人一組のパーティーを作ってもらう。好きな相手でも何でもいい。」

え。よく見たら知ってる人いませんけど。これ俺残るパターンじゃね?

「ん、じゃあもう組んでいいぞ。必ず3人一組な。確実に余らないからな。制限時間10分。」

や、やってやるぜ!!余らないんだからな!

たぶんこれは積極性とかいろいろ見られると思うぞ!俺的に。

まあまずは、なんかみんなに話しかけられなくてモジモジしている女の子に限る!!なんかかわいいし

と思ったらさっそく発見!!ポニーテールの茶髪の女の子!かわいい!!ものすごく!!

あの子すげーモジモジしてるぞ。

とりあえず話しかけてみるか。

「あ、あのー俺と一緒に組みませんか?あ、無理ならいいんだけど・・・」

「えー?嘘!!本当ですか!?!ありがとうございます!!誰にも話しかけられなくて、もう無理かと思いました(ニコッ)」

か、かわええ／＼／＼

「名前、なんていうんですか？あつ私、春色咲楽くハルイロ サクラ>っていいいます」

「俺は、天神どくろ」

すごく魅力的な名前だ。咲楽ちゃんの雰囲気こそつくりだ。

「私、同じ学校の人連れてきますので、少し待っていてください」

咲楽ちゃんは大きく息を吸うと、精いっぱいので、

「巻くうー！ー！ー！ん！ー！ー！」

4秒後

「なんだ？」

「さっすが巻君！早いね！俊足だね！」

お、黒髪セミロングのナイスガイだ。

「どくろくん！紹介するね。巻蓮くマキ レン>君！おさななじみだよ」

いつのまにか咲楽ちゃんがタメ語になつてゐる！すげー嬉しいんですけどー！！

「あのね、巻君、一緒に組んでくれるよね？」

「あ、あたりまえだ。」

こいつ、咲楽ちゃんの可愛さに一撃でやられたな

「よろしくなっ！蓮っ 俺の名前は、「天神どくろだろ。」

う、あの腹痛事件（？）で一氣に目立ってしまったか。

「あ、言い忘れてしまっていたが、パーティーが組めた次第、あそこの受付で登録してもらえ。」

おいおいおいおい、言い忘れるなよな。試験管だろ。一応。

「さ、パーティーも組めたところだし、さっそく登録しに行くか。」  
「いえっさあー！」

おい待て、なぜ貴様が仕切っている。ま、いいけどな。

「そうだなっ。さ、行こうぜ！」

・

・

・

「よし、これで全員組めたな。ドアを開けたらアスレチック的なものが待っている。ゴールまでパーティー全員でたどり着くんないかな？」

よし、気合入れいくぜえー！！！！

続く

## 入学試験と拷問2（後書き）

最後まで読んで下さった方、ありがとうございます。  
一瞬でも読んで下さった方もありがとうございます。

## 入学試験と拷問3（前書き）

3話目です。

よろしくおねがいします。

### 入学試験と拷問3

ガチャ

体育館の扉が開かれた。

・・・広つつつ!!

どれくらい広いかというとものすごくおおおおおおく広い!!

その体育館の中になんか大きいアスレチック的なものがあった。

それもまた、ゴールが見えないほどの大きさだ。

たぶんトラップなどという仕掛けもあるのだろう。

「ゴール、できるかなあ？」

「大丈夫じゃね？何とか」

頑張れば何とかなる!! たぶん・・・

「お前、頑張れば何とかなる!!・・・とか考えてないよな？」

「う・・・計画的に頑張ればいいと思います。」

何だこいつ！読心術でも使えるのか!?

「では、行くぞ！フライングはなしだからな。」

OK!! 遥先生。

「よーい・・・ドン！」

遥先生の掛け声により、いつせいに全員が走り出した。

・  
・  
・  
「チームワークを乱すなよ。ゴールの為にな（ニヤリ）」

「くっそ！超きっつい！！」

ずっと上るのばっかで、超疲れるんですけど！！

「疲れるね（ニコッ）」

咲楽ちゃん、全然疲れているように見えませんか？

おまけに蓮なんかは顔色一つ変えやしない。

くそっ腹立つ！

「うおおおおおおおおお！！！！」

「おい！いきなりペースを上げるなバカ！！はぐれたらどうするつもりだ！」

「なっなんだよ！いいじゃねーかよ」

「どこがいいのかさっぱりわからないなバカ！」

「なっバカバカ言っなよ！！頑張ってるじゃねーか俺が！全身全霊

「!!」

「お前の頑張りは空回りしてんだよ!」

今にも顔がくっつきそうなくらい顔を近くにして言い争っている。

「巻君もどくろ君も仲良しだね!」

グリンツと咲楽に顔を向けて、

「どこをどう見たら仲良しに見えるんだよ!!!」

やべえハモった。

息ぴったりじゃん。

「チツ オラ、さっさと行くぞ。」

「わかってるつつーの!」

俺は反抗期の息子かよ!!

もう何としても合格して蓮を見返してやる!

俺が決意を決めた時だった。

とんつとんつとんつ

木の柱を軽い足取りで跳ぶように進むパーティーがいた。

「なんだありゃ、すごすぎるだろ。」

「すごいね。ねっ巻君!」

「そうだな。」



短髪の赤いマフラーをした男は、首元に狐の入れ墨あって、三つ編みの女は腕に蛇の入れ墨、黒髪のポニーテールの男か女かわからない奴は、背中に般若の入れ墨があった。

不良か？入れ墨とか・・・

まあ、すごいことに変わりはない。

「あ、思い出した。さっきの入れ墨があったパーティーのこと。」

「有名なのか？」

「ん、まあな。」

正直、なんとなくがあいつらは危険な感じがした。

「あいつらの中学校は、超エリート、天明中学校といってな、エスカレーター式のところだ。」

「へえーやっぱ雰囲気全然違ったよねー。なんか怖かった！」

咲楽ちゃんも感じてたのか。

なんか超エリートって感じ。嫌味な奴らだ。

まあ俺も成績は良かったからな。足元にも及ばないことはない。

「でだな、入れ墨があるやつらは特に成績がよかったやつなんだ。ほとんどの高校から推薦がきているはずだ。」

な、すげー！！！！！！！！！！

ってこの高校そんなにすごい高校だったんだ！！

この先、ちゃんと生きていけるか心配になった。

続く

### 入学試験と拷問3（後書き）

半端な終わり方ですみません…  
読んで下さった方、ありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8746z/>

---

高校生活と探し物

2011年12月27日19時48分発行